# 「おかしい！」要求が次々と

## 市教組第11回定期大会を開催

さいたま市教組は、さる５月21日、与野本町コミュニティーセンターで第11回定期大会を開催しました。参加した組合員からは、教育条件整備の充実を求める意見、現場の声を聞かずにトップダウンですすめる市教委の教育施策への批判、長時間過密労働を強いられている教職員の痛切な訴えが語られました。

### 勤務時間守られない

38時間45分勤務になったが、勤務時間は守られていない。計画的な勤務時間の振替が取られない。土曜、日曜を使った自然の教室がある。勤務時間を守らせないとだめだ。

### 請願趣旨採択

市議会に提出した30人学級の実現を求める請願は、市議会本会議で初めて趣旨採択された。S小学校では年度途中41人クラスになった。とても大変。文科省はやっと小学1年の35人学級を実施した。

さいたま市で小学3年で35人学級を実施させたい。横浜市は小学3年で35人にすると聞く。今年はがんばろう。

### 被災校職員の疲労感

震災で校舎が損壊した栄小学校は、小には2学年だけが残り、他の4学年は朝、子どもたちをバスに乗せ、植水小と馬宮東小に分散して授業をする。自分たちの学校での生活ではなく、子どものケガも多い気がする。4時30分に2校から栄小へ戻ってくると疲労感がドッと押し寄せる。校舎の建て替えで3年間は運動場がつぶれる。不安がたくさん。組合に助けられながら進んでいきたい。

### 学習状況調査止めよ

さいたま市の学習状況調査は止めてほしい。意味がない。作業が大変。問題が大変。問題の中身の意味がない。変な問題がある。

「●●中と比較して▲▲が良い」と言う人物が出てくる。人間関係プログラムを中1でやると、「小学校でやった」と実施するたびに言われる。アレンジしてやるが意味がない。データを取るためにやっているのかと思う。

### 原発は廃止に

原発問題で言いたい。福島原発の1号炉はすぐに溶融していた。地震で壊れた。防波堤を作ってもそれとは関係なく被害が出る。破損箇所はロボットではなく人間でしか直せない。でも放射線量が高く、入れない。安全基準は意味がない。原発は止めるように要求しよう。

### 「広域人事は、良かった」と言えるか

市の校長会で年度当初の人事についての評価が話題になったようです。校長会の評価は概ね良い、という評価だとか。はたして一般の教職員はそう評価しているのでしょうか。

希望しないのに異動した教職員がいました。通勤時間が延びた人もいます。非常時に自分の家族や子どものことにも対処し、しかも勤務校での対応も安心してするためには、通勤距離と通勤時間が短い方が良いに決まっています。

人事異動についてのご意見を市教組に寄せてください。

### PC使い勝手改善を

校務用パソコンの使い勝手が悪く、家で仕事をしている。改善が必要だ。計画停電が心配。給食室は停電になると、何も出来ない。

### 組合新聞読んでもらえる

組合の新聞を職場で配った。みんな良く読んでくれる。まだ組合に入っていない人が、「最後は組合員として終わりたい」と入ってくれた。仲間を増やしたい。

さいたま市教組新聞

編集・発行/
さいたま市
教職員組合
330-0 843
さいたま市大宮区
吉敷町4-93-5
大宮教育会館2F
TEL 641-6763
FAX 648-3567
2011.6.14（火）
No.183

# さいたま市教組第11回定期大会 大会宣言

3月11日に起こった東日本大震災は、私たちに大きな衝撃を与えました。巨大地震の揺れ、大津波の映像、壊滅した町並み、死者・行方不明者の数、帰宅難民、原発事故、計画停電、避難所の現実等々、およそ考えだにしなかった現実が次から次へと目の前で展開されていきました。ここさいたま市でも、電車が止まり、ガソリンがなくなり、スーパー・コンビニから物が消え、街が真っ暗になりました。震災から2ヶ月余が過ぎ、街は平静を取り戻しつつありますが、復興への課題と道のり、そして原発事故の影響はまだまだ続いています。

ここから何を学ぶのかが問われています。こうした現実を前に、私たちは何ができるのか、何をすべきなのか。一個人として、教師（教職員）として、組合員として、・・・。

市内栄小学校はこの地震で大きく損壊し、さまざまな困難に直面しています。市教組はすぐに実態を把握し、緊急要求書を市教委に提出、交渉を持ちました。子どもたち・教職員の安全と健康を守り、安心して学校生活が送れるよう引き続き努力していきます。

「私たちは、子どもたちの笑顔を守るために、大切なことは何かを考え続けます。・（中略）・・・何よりも大事にしたいのは、直接子どもたちに接している教職員の声と感性です。あの地震の日に、“何ごともなかったように„研修を続けているような感覚では子どもの笑顔を守ることはできません。」（山本執行委員長）

私たちは、「子どもたちの笑顔を守るため」に、がんばります。「直接子どもたちに接している教職員の声と感性」を大切にして、がんばります。

「子どもたちの笑顔」を奪っているものは何でしょうか。

子どもからも、広く市民からの意見も求めることもなく、一方的に授業日数を２０５日に増やし、夏休みを短縮し、開校記念日を授業日にし、振替休業日のない土曜授業を実施することを決めた市教委の姿勢。朝７時前に出勤し、夜８時・９時まで仕事することが常態化している勤務実態を放置している現実。「マイナス７%シーリング」として教育予算・学校予算を削減し続けている実態。来年度から小中学校で全面的に実施される新学習指導要領の問題点とともに、各学校現場での具体的な改善も必要です。さらに視野を広げれば、将来不安をなくし、政治的にも経済的にも国際関係においても、平和で国民が主人公の社会をつくっていく課題が続きます。

私たちさいたま市教職員組合は、子どもたちの笑顔を守り、教職員がいきいきと働ける職場・学校をつくるために、全力で奮闘します。「子どもの権利・教育・文化さいたまセンター」（仮称）の結成は、さいたま市の教育をトップダウンではなく、市民の立場で論議し行政を動かしていく力になります。30人学級実現のための署名運動はこの10年間で35万筆を超え、今年2月の本会議で初の趣旨採択となりました。勤務時間問題でも、賃金交渉でも、平和をめぐる問題でも、市教組の役割と重要性はますます高まっています。

いま各職場には若い教職員が急速に増えています。子どもの目線、そして現場の最前線で働く教職員の視点を率直かつ真摯に訴え、さらに仲間を増やし、強固な連帯で結ばれたさいたま市教組をつくります。厳しい現実の前でも常に希望を持ってともにがんばりましょう。

右、宣言します。

２０１１年５月21日
さいたま市教職員組合
第11回定期大会